



執行部 陣内恒治

多くの悪法を制定！

安倍内閣は、多くの憲法学者が違憲とした集団的自衛権の解禁、安保法制の制定強行、国民の知る権利を破壊する特定秘密保護法、乱用が懸念される共謀罪の導入など、与党の数の力で悪政を推し進め、現在では、憲法「改悪」を策謀している。

このような安倍政権を退陣させるために、71回目の憲法記念日の5月3日、扇町公園に2万人以上が結集し、「安倍9条改憲許さない！5・3おおさか総がかり集会」が開催された。

安倍政権は森友学園と加計学園の問題で公文書の改ざん、口裏合わせしていたことなどが明らかになり、セクハラなどの不祥事も次々と明らかになっている。このような政治状況の中で、とても改憲提案ができる環境ではなく、自衛隊員の命を粗末にしないためにも改悪は断固阻止しなければならない。

沖縄に人権は存在しない

沖縄では、1995年の米兵の少女暴行事件から2016年うるま市強姦殺人事件まで20年以上、人権が蹂

躐されている。憲法前文や第1条でうたう主権者たる国民の権利は、存在しないかのごとくである。穏やかな日常はかなわず、生命が危ぶまれても放置される。自己決定権が軽んじられ、地方自治は後退する。沖縄では、憲法よりも安保・日米地位協定が優先されて、被害者の補償はされない。地位協定の見直しが最優先である。

もう一度、国民が目覚まして安倍政権を打倒して、まともな政治を作り上げる起点として頑張らないといけない。

命と暮らしと人権を！

集会では野党5政党の代表から、力強く「9条改憲を許さない」アピールが行われ、各分野から4名のリレートークがなされました。また、9条改憲を許さない3000万人全国統一署名が呼びかけられた。

朝鮮半島情勢として、平和と繁栄、統一のための板門店(パンムンジョム)宣言」を通じて「非正常的な現在の停戦状態を終息させ、確固たる平和体制を樹立することはこれ以上先送りできない

歴史的課題」であり、「年内に終戦を宣言し、停戦協定を平和協定に転換」することに合意した。

日本においても、外交によって平和憲法を守り、戦争する国づくりを阻止する行動が必要と痛感した。「働き方改革」法案も、労働組合は尊厳をかけて断固阻止しなければならない。アベノミクスを最近では、政権が言わなくなったのは、労働者の生活が良ならず、底が割れたからである。

でたらめばかりしているにもかかわらず、内閣総辞職に追い込まないのでは、悪例を残すだけになる。

集会終了後、西梅田、中崎町、天満の3コースに分かれてデモを行い、憲法改悪反対！安倍政権退陣！の声を上げた。



日朝友好なにわの翼

街も人も活気に満ちていた

書記次長

吉 馴 真

「第12回なにわの翼訪朝団」の一員として4月27日～5月3日の7日間、朝鮮民主主義人民共和国を訪問しました。

去年は、韓米合同軍事演習が最大規模で行われ、マスコミが「今すぐにも戦争が起こりかねない」などと喧伝する中で陣内執行委員が訪朝した際に、私は「今、朝鮮に行っても大丈夫ですか」と心配したことを覚えています。即ち、私も日本政府とメディアによって「朝鮮は何をするかわからない危険な国」との意識を植え付けられていたのです。ところが、陣内執行委員に限らず、毎年、なにわの翼で訪朝した支部の諸先輩方は、異口同音に「現地は、日本の報道とは全く違う」などと言い、最後に、「行かないとわからない」と言います。こうした言葉で今回の参加を決意しました。そして出発までの間、家族や友人からの心配や不安を煽る声に対し、「テレビとかの報道はウソウソ、大丈夫！」などと強がりながら当日を迎えました。

首脳会談当日の訪朝

出発の4月27日は、南北首脳会談の当日でした。そのせいか？、毎回行われる、関空の税関職員による人権を無視したかのような手荷物検査は全く行われず、そのまま搭乗口に向かうことができました。テレビの前には人だかりができています。そこには、韓国の文在寅大統領と共和国の金正恩委員長が、板門店の軍事境界線を挟ん

で固い握手を交わし、ともに北へ南へと徒歩で渡る映像が映っていました。

今まさに、朝鮮半島は平和と統一の新時代を迎えていると感激しました。70余年の「分断と軍事的緊張」の状態から、「平和と繁栄、統一」の時代を、南北の首脳が共同で切り拓いていく、歴史的な第一歩を踏み出したのであり、この輝かしい機会に訪朝できることに、



不安は吹き飛び、逆に、期待に胸が膨らみました。

いざ出発！関空から平壤までは、約1100km(那覇よりも近い)、2時間ほどの距離にもかかわらず、今回も30時間ほどかけて、北京(朝鮮大使館でビザ取得)経由での訪朝です。

「北朝鮮」といえば、孤立、閉鎖的、独裁支配のイメージではありませんか？僕自身も長年、テレビなど日本のメディアによって、訪朝者から話を聞いていても、そのようなイメージは拭えませんでした。

したがって今回は、滞在中に、ずっとお世話になった朝鮮対外文化連絡協会(対文協)の方たちに案内して頂いた場所や施設の様子を書くより、感想を率直に話すこ

とにします。

懐かしさを感じさせる街や人々の暮らし

まず、平壤行き高麗航空の機内は旅行客でいっぱい、ヨーロッパ系の人が多く、ワイワイと盛り上がっていました。160カ国以上と国交があるのだから、考えてみれば当たり前なのですが、閉鎖的なのは日本では？という気に・・ちなみに機内食はハンバーガーでした。

到着後、滞在は平壤市内のホテルです。市内は人も多く、通勤ラッシュ時は路線バスなどは超満員で、行き交う人々からは、日本の通勤時に見かける重い足取りや暗い表情は無く、凄い活気を感じました。車も多く、真新しいタクシーもたびたび見かけ、レクサスも走っていました。広大なプールでは、多くの家族連れが楽しんでいました。太った人も多く、勝手に“共和国はガリガリの人ばかり”とのイメージを持っていた自分を恥じました。理髪店では、若者がカタログを見て、自分好みの髪型にしていました。他に、動物園やモランボン公園では、多くの家族連れが手作り弁当を広げ、あるいは焼き肉を楽しみ、ラジカセの音楽で踊ったり、カラオケをしたりしていました。その姿には、自分の幼少の頃が思い出され、ふと、考えさせられました。今日の日本には、たくさんの物が溢れ、便利な暮らしですが、それだけで幸せとは限らない。朝鮮は、確かにまだまだ物も施設も少ないし、不便も多い。しかし、休日には家族で楽しんでいる姿や笑顔に、もの凄く多く出くわしました。街や人々には活気を感じ、またどこか懐かしい感情を抱く訪朝でした。